

⑩実用新案公報

④公告 昭和45年(1970)6月6日

(全3頁)

1

④釣糸等の捲取器

②実 願 昭40-72585
②出 願 昭40(1965)9月4日
②考 案 者 亀田竹雄
東京都新宿区喜久井町11
⑦出 願 人 東陽合成樹脂工業株式会社
東京都新宿区戸塚町3の880
代 表 者 谷口貞二
代 理 人 弁理士 吉村悟

図面の簡単な説明

第1図は本考案捲取器の下半部を切欠した正面図で蓋体を取り外した状態を示し、第2図は同器の一部切欠縦断側面図、第3図は要部の拡大斜面

考案の詳細な説明

本考案は、主としてテグス、ナイロン糸等の釣糸を携帯する際に携帯を便ならしめた捲取器に関するものである。

糸を捲回すべく外周壁が開放された断面コ字型の環状枠体をその口径を変えて重合するようにした糸巻きは周知であるが、特に自体に剛性を有するテグス、ナイロン糸等に於ては、捲取られた糸の開放先端に対する抑止力を解くと、自らの剛性によつて捲枠から離れてその捲回口径を増大し、糸のからまりの原因となる一方、所要の長さの糸を切断した後も残りの糸を再び捲枠に緊締捲回するためには多大の手間を要することとなる。従つて上述のように重合された多数の環状枠体中より所望の枠体を取り出して所望長の糸を解き切断する際に応々にして前述の抑止力が解かれて捲込まれている糸が弛緩する恐れがあり、携帯に便ではあるが所望の枠体を取り出さねばならず取り出し収納操作が厄介である。

本考案は、上述の欠陥を排除し、環状枠体を収容器筐から取り出すことなく糸の捲込み、引き出しを行い得るように工夫したもので、これによつて糸のからまりを防止し且操作を極力簡易ならし

2

めたものである。

即ち口径の異なつた環状枠体を順次外側方に重合するようにした捲取機構に於て各環状枠体にその環状枠体の内側に隣接する環状枠体に捲回した糸条の開放先端を貫通する案内孔とこれに連なる案内溝とを設けると共に前記環状枠体の内側環状枠体に、これに捲回した糸条の基端部を係止すべき切溝を具えた切欠部を形成してなる釣糸等の捲取器を要旨とするもので、以下図面に従つて詳述すると、1, 1', 1'' ……は順次重合された環状枠体で、断面略コ字型をなし、その一方の側壁2の内側周縁は内方に張出されて係止縁2'を形成し、内方に隣接する環状枠体1'の一段低く形成された側壁2の外周縁に重合するようにしてある。各環状枠体1, 1', 1'' ……の係止縁2'には糸条Sを貫通する案内孔3とこれに通ずる案内溝4とが設けてあり、更に案内孔3より導出された糸条Sの先端を係止する切溝5を具えた摘子6が設けてある。7は切欠部でその一隅に糸条Sの捲込み基端部9を係止する切溝8が設けてあり、第3図示の如く案内溝4に切欠部7を対向せしめた状態で糸条Sの捲込基端部9を切溝8に係止すると同時に糸条Sを案内溝4を経て案内孔3に導き入れるようにしてある。10は外枠で断面「」型をなし外側屈曲縁11は最外側の環状枠体1の側壁2の外側縁に重合するようにしてあり、更に中央部には最内側の環状枠体1'''を支える環状壁13を設けてある。外側屈曲縁11にも環状枠体と同様に案内孔3、案内溝4並びに係止用のための切溝5を有する摘子6を設けてある。12は外枠10を被う蓋体である。

このように構成された本考案捲取器に於ては、第3図示の如く環状枠体1の案内溝4に枠体1'の切欠部7を対向せしめ、この状態で糸条Sの基端部9を切溝8に圧入係止せしめ次いで案内溝4を経て案内孔3に糸条Sを案内位置せしめた後、環状枠体1を手指を以て外枠10と一体に抑止し枠体1'の摘子6を以て枠体1'を第1図上時計方向に回転すると糸条Sは案内孔3を経て枠体1'

3

上に捲き取られることとなる。斯くして糸条Sの開放先端を残置して枠体1の摘子8の切溝5に係止せしめることにより枠体1'への糸条の捲回を終了する。このようにして順次外側の環状枠体より捲回する。

このように捲回された糸条の引き出しに当つて今第3図示の枠体1'の糸条を引き出すとすると枠体1を前述と同様外枠10と一体に把持し糸条Sを案内孔3を経て引き出すのであるが、枠体1'は第1図上反時計方向に回転しつつ糸条が引き出されることとなる。この際その内側の枠体1''に捲回された糸条S'の開放端部は枠体1'の摘子8に係止されているので、枠体相互の摩擦力と相俟つて枠体1''も共に回転する。同様に枠体1''以下1''も同様に一体的に回転されることとなる。従つて糸条の引き出しに当つては、その糸条の捲回された環状枠体に接する外側の枠体を抑止して糸条を引き出せば、その枠体の内側の枠体は凡て一体的に回転することとなる。斯くして必要長の糸条を引き出した後これを再び摘子8の切溝5に係止するものである。又糸条Sの開放端が枠体内に捲き込まれたような場合にも前記切欠部7により案内溝4を経て案内孔3にこれを導くことが出来る。更に外枠10は比較的弾力性を有

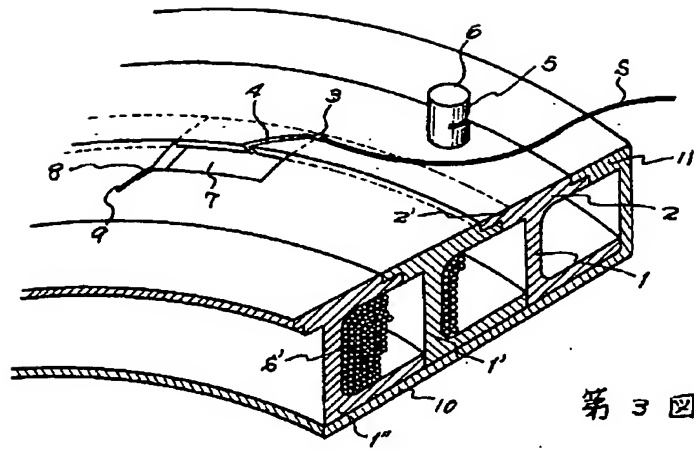
4

する合成樹脂等を以て形成し、外枠を外方にそらすように撓曲することにより、環状枠体1を先ず取り外すことにより、他の枠体1'……1''を容易に取り外すことが可能であり、組込みに当つて

5は内側枠体より順次装入し最後に最外側の枠体1を前述と同様にして嵌装するものである。叙上の如く本考案によれば、環状枠体1, 1'……1''を取り外すことなく組合せた状態で糸条の捲込み引き出しを容易に行うことができ、操作を容易ならしめ得ると共に糸のからまりを防止し得る優れた効果がある。

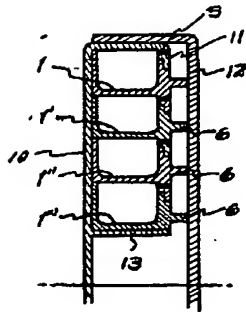
実用新案登録請求の範囲

外周壁が開放された断面コ字型の環状枠体を順次外側方に重合するようにした捲取機構において各環状枠体(例えば1)の内方に張出せしめた係止縁2'に、前記環状枠体1の内側に隣接する環状枠体1'に捲回した糸条Sの開放先端を貫通する案内孔3とこれに連なる案内溝4とを設け、且つ側壁2上に摘子8を突設すると共に内側環状枠体1'の側壁2には該枠体1'に捲回された糸条Sの基端部に係止すべき切溝8を具えた切欠部7を前記案内溝4に対向すべく切開してなる釣糸等の捲取器。



第 3 图

第 2 图



第 1 图

